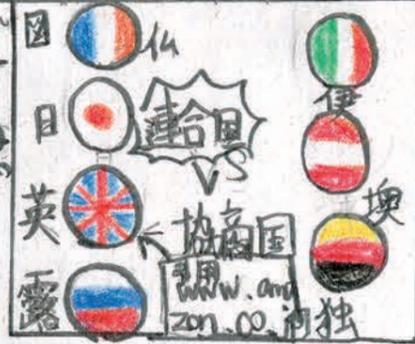


船と平和



この時日本は直接戦争に介入というよりか、間接的に入っていました。なぜかというと、日本は兵士とか、船などを送っていたりして、距離が遠かったんです。

その時日本国内では、海外に向けての船を大量に作って、お金もあげてしていました。そのため、景気が良くなっていました。これを大戦景気と言います。

でも実は、大正時代は物凄く船がはやっていたんです。やはりWW1の最中ですので、船舶が不足していたという事もあったので、こんなにもうかっていたんです。

大正時代の船はどんな感じ？
モダンなスタイルや、カッカレーなど、日本の和の要素と海外の洋を取り入れた和洋折衷が日本国内で流行っていました。それは船でも同じでした。この時代にできていた船として有名なものとして安洋丸が挙げられます。

そんな安洋丸とは一体どんな感じだったのか気になりますので、どんな感じか調べていきます。

安洋丸はもともと南米航路向けに建造されました。実際に南米に住んでいた日本人もおり、一九二五年に米から船員法を作ったため、帰って下さいと撤退を伝えま

柴田新聞・柴田記者・二号
大正時代の生活・文化ナビより
WIKIPEEDIAより
JSMEDIAより
JSMEDIAより
JSMEDIAより
JSMEDIAより

英と私が宣戦布告をしたため、第二次世界大戦が起りました。この時に日本も大和を作っていました。

その後、いろんな国から船を講入したり、貨物船の云々実に果たしたりしていました。

船体としての特徴は、日本で初めてのギアタービンが使われています。正式名称はギアード・タービン方式と言われています。仕組みは船の推進動力伝達方式の一種であり、タービンエンジンとプロペラを使って船を動かしています。これは当時としても革新的なものでした。と驚くほどです。

大正時代の船はより技術が上がっているのが現代の船との共通点が上がってきています。たんだんと船の技術が高まっていく日本、またしてもどんな感じに成長していくのか。

次は昭和時代にまた船について調べていきます。

昭和時代にできた船は、主に大和が有名ですね。大和が作られる前、世界は一九三〇年頃から世界恐慌が起きていました。そこから日本は満州へ進み、満州事変、日中戦争にたがってしまいました。世界でも独がポーランド侵攻をしたので

私は更に、そんな戦艦大和の設計はどんな感じなのか、当時の様子の子の動きを深く見ていきたいと思っています。

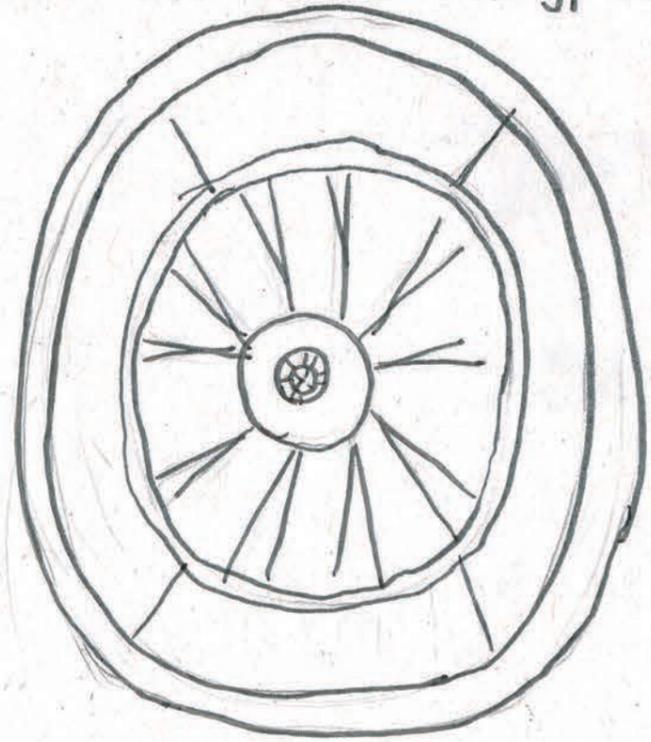
戦艦大和の主な特徴として全長二六三・〇mもあり、幅は三八・九mです。舷側をはじめ、対水雷防護隔壁など十二個の装甲や、最大五機の飛行機がとまることができます。凄いですかー！確かに世界最良とも感じられます。

動きとしては、ガタルカナル島、リナ沖海戦、レイテ沖海戦、たぐさんの戦歴を残しましたが、最後の沖繩戦で沈ぼつてしまいました。

第二次世界大戦では、ミッドウェー海戦を機にじりじりと追い込まれていきました。



<図>タービンエンジン機 motorz.jp より



編集者からの感想
私はこの新聞を制作するにあたって思った事があります。船は歴史と共に歩いていて、私達の身近にいてくれて守ってくれています。船は戦力としても使われがちですが、題名を考えた時に船を通してでも平和を願うことが出来るのではないかと思いました。

内容はわずかながらでしたが船の歴史を知る事によって、共に伝えられていくと思えます。

最後に参考元の大正時代の生活・文化ナビさん、WIKIPEEDIAさん、JSMEDIAさん、国王交通省さん、MELISSAさんの方々に、協力ありがとうございました。